

東西条スマイルプラン～心に響く体験を生かした道徳の時間の年間指導計画（第5学年）

テーマ:かがやかせよう みがき合おう なかまとともに

学校教育目標

豊かな心もち、たくましく生きぬく子どもを育成する

道徳教育重点目標

進んで学ぶ子
命を大切にする子
手をつなぐ子

めざす5年生の子どもの姿

- 自分のよさを見つけ、それをさらに伸ばす
- 思いやりの心や親切な行いを広げていく
- 積極的に役割や責任を果たし、そこにいる楽しさ、喜びを実感する

道徳の時間の重点内容項目

1 - (6)個性伸長 ・ 3 - (2)生命尊重 ・ 4 - (1)社会的役割の自覚と責任 ・ 4 - (4)勤労・社会奉仕 ・ 4 - (7)郷土愛

● 重点内容項目の指導構想

学期	教科・特別活動など	総合的な学習の時間	道徳の時間		常時活動
			ロング ユニット	ショート ユニット	
一 学 期	社会 「わたしたちの生活と食料生産」 家庭 「作っておいしく食べよう」 理科 「受けつがれる生命」	自然のなかでかがやこう ○ 稲の育て方を調べよう ○ かがやき米を育てよう ○ 野外活動しよう	3 - (1) 3 - (2) 4 - (5)	かかわり合いの中でかがやく自分になるう 4 - (1)	読書タイム・わくわくチャレンジ ふれあいそつじ・ふれあいサーキット
	社会 「わたしたちの生活と工業生産」 「わたしたちの生活と情報」 特別活動 「創立記念発表会」 家庭 「わたしにできることは」	かがやいている人に学ぼう ○ かがやき米を収穫しよう ○ 地域の方のお話を聞こう ○ 創立記念発表会で伝えよう ○ 地域の方や異学年と交流しよう	3 - (1) 3 - (2) 4 - (4) 4 - (7)	自分を見つけみがきをかけよう 1 - (6)	
三 学 期	社会 「わたしたちの国土と環境」 国語 「マザー・テレサ」 特別活動 「6年生を送る会」	かがやかせよう なかまとともに ○ これまでの自分を見つめよう ○ かがやきを伝え合おう ○ かがやき発信HPづくり	1 - (2) 1 - (6) 4 - (8)	あたたかい心を伝えよう 2 - (2)	

(太字が重点項目)

第5学年1組 道徳学習指導案
生きているんだね 自然とともに

「土は命のお母さん」【ロングユニット】 3—(1) 自然愛

出典 『新しい道徳』(一部改作) 光文書院

本時のねらい

自然の偉大さを知り、自然を大切にしようとする心情を育てる。

ふるさとティーチャーが参加する授業

指導者 東広島市立東西条小学校 前花 文香

1 主題設定の理由

ねらいとする価値

土があるから植物が育ち、その植物を食べて人は生きていくことができる。土があるからこそ緑の地球が存在し、そこで生命がはぐくまれている。この地球の自然は、人類が誕生するずっと昔から、長い長い時間を越えて存在してきた。しかし、自然の偉大さに触れる機会が少なくなり、人間も自然の一部だという意識が薄くなっている。

自分から進んで自然にかかわることで、自然への愛着が呼び覚まされる。自然の美しさに感動したり、自然の強さを謙虚に受け入れたりする感受性をはぐくむことが、自然を大切にし、自然の一部である自分たちを大切にしようとする気持ちを高めることにつながるのである。

心に響く資料

和恵たちの学校の農園でサツマイモの収穫をした。和恵は手がよごれたり虫がいたりするので、畑での活動があまり好きではない。いっしょに収穫をしていた子どもたちから、「土はおイモのお母さんみたい」「土は虫のお母さん」という言葉が出てくる。収穫が楽しくなってきた和恵には、土が何だか今までとは違うもののような感じがしてきたという話である。

登場人物の気持ちを考えていくことで土の果たしている役割に容易に気付き、自然のすばらしさに共感することができる資料である。

展開後段で登場するふるさとティーチャーの話をより感動的なものとするできるように、資料を一部改作した。

価値の自覚を深める工夫

導入で、児童が米づくりにかかわった体験的な学習をしている写真を見せ、今までの総合的な学習の時間を振り返る。そして、前もって採取していたふるさとティーチャーの畑の土を提示する。土に触れた体験的な学習を振り返りながら、土に着目させていく。

終末では、学習したことを振り返らせ、自然に対する見方や感じ方がどのように変わったかワークシートに記入させる。

米づくりの指導をしていたいふるさとティーチャーに参加していただき、自然のすばらしさや、どのような思いをもって自然とかかわっておられるかについて語っていただく。そのことによって、自然を深く見つめ、自然の偉大さを感じ取り、自然を大切にしようという気持ちを持つことができると考える。

児童の実態

本学級の児童は、総合的な学習の時間「かがやき米を作ろう」で田植えを体験している。全員、裸足で田の中に入ったが、後で感想を聞いてみると、「においがしたり、土の感触が気持ちが悪かったりしていやだった」という児童もいた。また、自然についての意識調査を行ったところ、次のような結果が得られた。

自然を大切にしていますか？

・ゴミを捨てない、節電・節水をするなどを普段心がけている—75% ・気にしたことがない—25%

自然のここがすばらしいと言える—55% 言えない—45%

この結果から、自然のすばらしさや不思議さ、偉大さなどを実感をもって認識している児童は多くないと考えられる。

本時で自然に対する見方や感じ方が揺さぶられることによって、児童の「かがやき米」への意識が高まり、自然にかかわる体験的な学習での感じ方も変わることが予想される。

2 全体計画（全 21 時間 総合的な学習の時間 18 時間 道徳 3 時間）

時期	児童の意識の流れ	道徳 ●「心のノート」活用 ふるさとティーチャー	各教科・特別活動 総合的な学習の時間
九月 十月	○ 稲の穂を初めてじっくりと見たよ。 ○ たくさん米が実るといいな。 ○ すずめに食べられないようにかかしを作ろう。 ○ どんなかかしを作ったらいいか、地域の方に聞いてみよう。 ○ 協力して作ろう。 ○ 自分たちが育てたコスモスの種をふるさとティーチャーの方にプレゼントしたら植えてくださったよ。 - 命は受け継がれていくんだね。 ○ 土はすごい力を持っているんだね。 ○ 土に対するイメージが変わったよ。 ○ 土は命のもとになっているんだね。 - ふるさとティーチャーの方の話を聞いて、自然はすごいなと思った。 ○ 黄金色の稲が実ったよ。 ○ 稲刈りをしよう。 ○ 稲をしばるのは難しいんだね。 ○ ふるさとティーチャーの方は稲刈りが上手だね。 ○ かがんだ姿勢で脱穀をすると、腰が痛くなるけど、ぼくたちのかがやき米がとうとうできた。 - 汗をかくのって気持ちいいね。	「いのちのバトン」(自作) 3 - (2) 生命尊重 ○ 生命の大切さを感じ取り、自他の生命を大切に力強く生きていこうとする心情を育てる。 ● 展開後段で「心のノート」P62～64を読み、P65の『いのちについて学んだこと、そして考えたこと』を考えることにより、生命の尊さへの実感を強めていく。 昨年、菊づくりでお世話になったふるさとティーチャーの方に、生命が受け継がれていることについて話をしていただく。	総合的な学習の時間「かがやき米をつくろう」 ○ 稲の穂を観察する。 ○ かかしを立てる。 ・ 設計図を書く。 ・ 材料を集める。 ・ 製作する。 ○ 稲の成長のひみつについて、JAの方の話を聞く。
		「土は命のお母さん」(光文書院) 3 - (1) 自然愛 【本時】 ○ 自然の偉大さを知り、自然を大切にしようとする心情を育てる。 米作りでお世話になっているふるさとティーチャーの方に、どのような思いをもって自然とかわかっておられるのかを語っていただく。 ● 事後の帰りの会で「心のノート」P60～61を読む。P61の『わたしにできるこんなこと』に記入し、紹介し合う。	○ かがやき米を収穫する。
		「弘君の委員会活動」(光文書院) 4 - (4) 勤労・社会奉仕 ○ 働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立とうとする態度を育てる。 ● 授業の終末で「心のノート」P84～85を読み、働くことについての自分の考えを持つ。	○ 乾燥させる。 ○ 脱穀する。 ○ かがやき米ができたお祝いの会について話し合う。

3 本時の指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	1 今までの学習を振り返る。 土に触れた体験にはどのようなことがありましたか。 ・田植えをしたよ。 ・野菜作りをしたよ。	○体験的な学習の様子がわかる写真や土を用意し、土に触れた体験を引き出していく。
展開前段	2 資料「土は命のお母さん」を読み、話し合う。 ○サツマイモの収穫をする時、和恵はどう思っていたでしょうか。 ・あまり気が乗らない。 ・手がよごれるし、くつの中に土が入るから、あまり好きではない。 ・虫も苦手だ。 ○「土はおイモのお母さん」「土は虫のお母さん」という幸子の言葉はどういうことでしょうか。 ・土はおイモを温かく包み、育てている。 ・土は虫にとって、住み心地がよくて、ほっとできる。 和恵は、土についてどんな感じをもつようになったでしょう。 ・土は命のもとになっている。 ・最初は、土はあまり好きではなかったけど、土はすばらしいと思うようになった。 ・土を大切にしていこう。	○自分が米づくりや野菜づくりをした時のことを思い起こさせながら、共感的に和恵の心情をとらえさせるようにする。 ○言葉の意味を自由に想像させることで、土がいろいろな命を支える大切な役割を担っていることに気付かせるようにする。 ○「土が今までとは違うもののような感じがしてきたのはどうしてなのか」と補助発問を行うことにより、中心発問へとつなげていく。 ○土に対する思いを深めるため、ワークシートを活用する。
展開後段	3 ふるさとティーチャーの話を聞く。 ふるさとティーチャーのお話を聞いて考えてみましょう。 ・土や稲はすごい力を持っているのだなあ。 ・水も稲のお母さんだ。	○ふるさとティーチャーの方と連携をとり、自然の偉大さを感じ取ることができる説話をしていただく。
終末	4 感想を書く。 ふるさとティーチャーのお話を聞いて考えたことを書きましょう。 ・わたしたちは、すばらしい自然の中で生きているのだなあ。 ・自然を大切にしていこう。	○学習したことを振り返らせ、自然に対する見方や感じ方がどのように変わったか明らかにする。

○基本発問 中心発問 今までの自分を見つめる発問 これからの自分を見つめる発問

4 教師の評価の観点

- 自然に対する見方や感じ方を深めることができたか。
- ふるさとティーチャーの話は有効であったか。

5 児童の自己評価の観点

登場人物の気持ちになって考えることができたか。
 友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができたか。
 自然のすばらしさを感じ取ることができたか。

6 資料

土は命のお母さん

和恵たちの学校には農園がある。農家から畑を借りて、総合的な学習の時間にいろいろな野菜を作っているのだ。

みんなは畑の中に入っていくと、さっそく土をほりはじめた。

そんな中において、和恵はあまり気が乗らない。手がよこれるし、くつの中に土が入るから、このような農園での活動はあまり好きではなかった。

そんな和恵におかまいなく、となりにいる幸子が話しかけてきた。「和ちゃん、どんどんおイモが出てくるよ。こんなにおイモができるなんて、まるで、土はおイモのお母さんみたい。」

（え、どついついこと？）ときこつとしたとき、続けて幸子が大声をあげた。

「ねえ、幼虫よ。大きい。」

和恵は顔をしかめたが、幸子の声にみんなが集まってきた。

幼虫を手のひらにのせたのは哲史だ。哲史は、「虫博士」の名前をもらっている。

「何の幼虫かなあ。おじさんにきいてくるよ。」

そう言つと、哲史は農家のおじさんのところに走っていった。

しばらくすると、哲史は農家のおじさんといっしょに帰ってきた。

「コガネムシの幼虫だつて。」

哲史が言つと、おじさんは畑の土を手にとって話しはじめた。

「この畑の土はふかふかでしよう。水はけもいいからイモがよく育つんだよ。幼虫にとつてもすみ地がいいんだね。幼虫はイモの根っこを食べるからね。」

「だったら、土は虫のお母さんでもあるのね。」

幸子は、にっこりわらった。

「そうか、なるほどね。幼虫はイモの根っこを食べるからめいわくな感じもしていたけれど、君たちの発想にはまいった。実は、この土がふかふかしているのにはひみつがあるんだよ。それは、あとでね。」

おじさんはそう言つと、向こうへ歩いていった。

まだまだ、イモはたくさんありそうだ。和恵も楽しくなってきた。そして、土が何だか今までとはちがうもののような感じがしてきた。

ふるさとティーチャーの話をより感動的なものにするため、後半を削除する。

しゅうかくが終わって、みんなでおじさんのところにあいさつに行くと、おじさんは次のようなお話をしてくださった。

畑の土は作物を育ててくれます。その作物を人間が畑から持ち出すので、そのかわりに、土には落ち葉など自然のもので作った堆肥をあげています。堆肥をあげると土は元気になり、また、作物を育ててくれます。

このごろは、堆肥のかわりに化学肥料を使う人が多くなりました。化学肥料をたくさん使つと、作物がたくさんしゅうかくすることができるようですが、でも、それだと土の中にある自然のものをうばうだけになってしまつて土の成分のバランスが悪くなり、作物が病気になります。すると、それをふせぐために農薬をたくさん使つことになり、雨が、雨によってそれらの化学肥料や農薬をふくんだ水が川や湖に流されて水がよこれるのです。

この畑の土は、そのようなことにならないように自然のもので作った堆肥をあげています。そして、土がもっている自然の力が、このおイモを育てたのです。

その夜、和恵は、日記に次のように書いた。

土はおイモのお母さん

土は虫のお母さん

土は自然のお母さん

土は命のお母さん